

- 初動期における情報の利活用
  - 情報・状況評価に基づく活動方針の決定（ドローンの効果的活用、状況地図、状況評価表等）
  - 要救助者の位置特定の手順化（土砂流出方向等の評価方法、空間情報の利活用等）
- 安全管理要領
  - 現場状況に応じた安全監視要領（監視員の配置、監視センサー等の設定等）
  - 危険度ゾーニング（二次災害警戒範囲、退避エリア・経路等）
- 搜索救助活動要領
  - 効率的かつ持続的な活動  
（重機の効果的活用、土砂埋没建物・泥濘地等での救助技術、重複検索の防止、他隊への引継ぎ等）
- 関係機関との連携・広域応援活動
  - 専門機関等の早期要請（必要消防力等の算定、専門機関・応援部隊等の要請）
  - 専門機関等との連携活動（土木事業者等との役割分担、活動の共通理解）
- 活動経験等の補完
  - 実戦的な教育・訓練（教育・訓練の手法、災害事例・危険予兆等の見える化）
  - 活動手順等の理解度向上（基本的な活動の流れ、フロー化・ToDoリスト化）

※ 各事項における有効な資機材含む。